

長岡方式の避難行動（信濃川）のイメージ

1 避難行動判定フロー

① わが家の特徴を確認

- 避難に使える車
ある・ない
- 上階への避難を想定建物の階数
1・2・3階以上
- 浸水しない区域に頼れる知人・親戚
いる・いない など

② 地図で自宅の危険性を確認

- 洪水時の自宅周辺の... 浸水する区域と深さ
浸水想定区域
- 激しい流れでの倒壊の恐れ
家屋倒壊等氾濫想定区域
- 避難時の危険箇所
洪水時危険箇所 など

③ 避難行動、避難先、移動手段を決定

避難先まで、想定している手段で
平時に移動して確認しておく

2 信濃川早期警戒情報

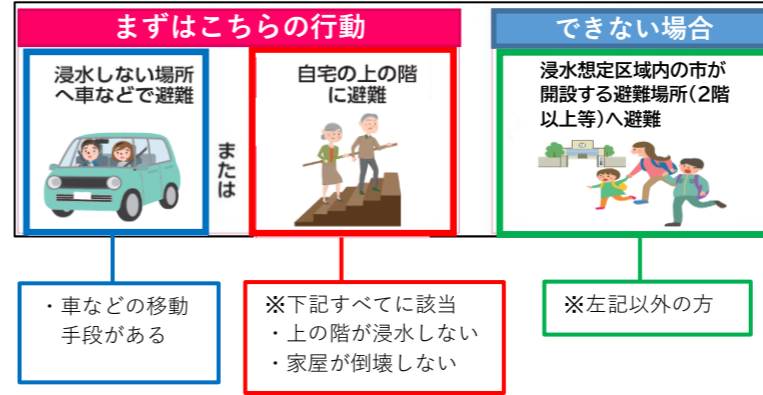
・避難の準備や早めの避難行動を促す情報として、避難情報を発令する前の警戒レベル2以下で発出

⇒浸水想定区域外の避難場所を開設



3 長岡方式の避難行動

自宅内や車移動による安全確保を最優先に考え、市が開設する避難施設だけでない**避難行動**



4 避難者数シミュレーション

- ・避難対象者は19.9万人。
- ・市が開設する避難場所の収容人数は9.8万人。
- ・長岡方式の避難行動の実現により、避難場所への避難しか選択できない方のスペースが確保できる。

避難先	人数(万人)
1 車等で浸水しない場所	4.8
2 自宅等の上の階	5.3
3 市が開設する避難場所	9.8

